

経営体の概要

- ・所在地：岐阜県恵那市（岩村地区）
- ・経営体名：農事組合法人 富田営農
- ・栽培作物・作付面積：水稻51ha、大豆4ha
- ・役員、従業員数：10名（季節雇用を除く、常勤のみ）
（令和6年5月現在）



導入技術

- ・クラウド型生産管理システム
（（株）クボタ製、KSAS、R2導入）
- ・直進アシスト機能付き田植機
（（株）クボタ製、
NW8S-PF-GS、R3導入）
- ・収量等センサ付きコンバイン
（（株）クボタ製、
DR575S-PFW2-C、R4導入）

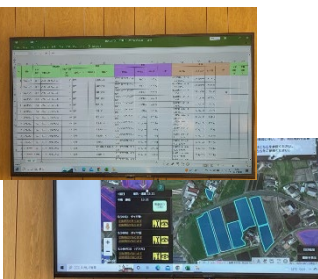


導入経緯

- 中山間地域に位置する当経営体が農地集積を進める上で、経営ほ場の区画が約15a平均と小さく300筆を超える中、ほ場毎の作物作付の計画管理や作業工程の記録管理等の負担が年々大きくなってきた。
- そこで、経営・作業工程管理の効率化や軽労化を目的にR2年度からスマート農業機械・機器を順次導入した（県単：スマート農業技術導入支援事業など活用）。

取組の特徴・効果

- KSAS及び連動機械の導入により、ほ場毎の作付作物や作業記録等の情報を機械から直接受取することで、作業工程記録・保管に係る労力を削減。
- 直進田植機の導入によって、経験が浅いオペレーターでも高い精度で作業が可能となった。
- 収量等センサ付きコンバインの導入により、食味データ等に基づく次年度の施肥改善への活用が可能となるも、経営全体への波及には全機械の更新が課題である。
- スマート農業技術の導入・活用によりほ場情報や生産工程等を容易に管理できるようになったため、R3年度からは「ぎふ清流GAP」へ取り組み、R5年6月に認証取得（評価書交付）済み。
- スマート農業技術の導入とGAPの取り組みで労働環境改善が図られ、R5年春の地元高卒者1名の新規雇用にも結び付いた。



KSAS管理画面
（作業記録(左上)
とほ場位置(右下)



田植機（直進
を維持し自動操
舵で田植え）



コンバイン（収穫
時に水分・収量・
食味を測定）